



谷村志穂さん (作家) ④面 随想



革新懇九州・沖縄ブロック 交流会が盛況 ③面

全国革新懇の3つの共同目標 ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本を... ②日本国憲法を生かす自由と人権、民主主義の発展を日本をめざします。③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

全国革新懇ニュース

2011.11月号

(発行日11月10日)

購読お申し込み ☎03(3357)5515 年間購読料1800円・送料込

334

発行所 平和・民主・革新の日本をめざす全国の家

(全国革新懇)発行人 乾友行 編集長 阿部悦子 〒160-0004 東京都新宿区四谷3-8 三編ビル5F ☎03(3357)5515 F A X 03(5363)8965 振替 00170-5-20213 ホームページ http://www.kakushinkon.org/ Eメール zenkoku@kakushinkon.org

革新懇 インタビュー

原発問題 変えるのは、ぼくたち国民

声をあげなければ 「原発反対」をツイッターや集会などで訴え続けています。命に関わることで声があげないわけにいかなくなっていますね。

子ども時代、台風や嵐がくると一番外に飛び出して、雨のたまった校庭でスライディングしたり、側溝をすごい勢いで流れる水をせき止めたりして遊びました。無邪気で、自分にとって一番キラキラした時間でした。いま子どもたちが同じ遊びをしただけはくしてしまふ。子どもらしく遊べる環境が奪われている。この先の未来も奪われるような状況はもう申し訳ないと思

いでいっばい。いまは地震の活動期といわれ(地震や津波が)いつくるかわからないのに、50基を超える原発がすべて海岸線沿いに建っている。いつせいで止まらなければいけません。声をあげなければ自分も目先の利益のみとらわれている国や電力会社と同じと思うと、声をあげずにいまままで通りの生活をする選択はもうなかつたですね。政治的なことでオフィシャルに声をあげたのは初め

市民運動のうねりを 4月10日、市民が呼びかけた原発反対のデモに参加しました。デモという火炎びんが飛んできた。ジュラルミンの盾を持った機動隊がいるというイメージでした。行ってみたいけどびつくりまし

だ。全然違う。同じ思いを持った気概ある大人たちがこれだけたくさんいるんだと、胸にくつときました。一人じゃないと心の底から思えた。(日本は)やり直せるかもしれないと希望や勇気をもらいました。 「さようなら原発集会」(9月19日、東京)ではデモ参加者一人ひとりと握手を交わしていましたね。これが民意だと感激しました。6万人規模だと視覚的に訴える効果があり、メディアも取りあげざるを得ない。すべての団体と市民が思想も超えてつながり、生きていたい人はだれでも参加する巨大なイベントをやつていくことは大事だと思います。市民運動のうねりができればいいですね。

でも自分や周りの人が生きていくための最低限の声を一市民としてあげているだけです。 東電福島原発の事故は何も収束してないし、安全の確立もしてない。今回、これだけ大きな原発事故を起こしたのに、その不安定な核技術を海外の国に売ろうとしていることも憤りを感じます。(次の国政選挙で)民主党が負けて自民党政権になったとしても(現状では)看板を掛け替えるだけで中味は変わらない。根本から変えるのはぼくたち国民しかない。どれだけの人が

本気になって立ち上がるかだと思えます。草の根でやるしかない。 信念を貫いて 生き方やエネルギーの源泉は、昔からだれかが不条理を押しつけられたりする姿を見ていられたらいいと思います。うちは母子家庭だったので一人でも生きていけるようにと、いろんな世界を見せてもらったし、子ども扱いせずなんでも話してもらっていました。(原発反対を表明してから)仕事は10分の1以下に減っています。苦勞させてきた母に安んじた老後をおくらせてあげたいという気持ちがあつたから、申し訳ないと思います。 でも母から「自分の信念を貫いて」「正しいと思つたことをやりなさい」と言ってもらえませんでした。背中を押されましたね、すげえ。 いい役者になりたいという夢があり、「原発」以外の仕事もしたい。でも今回、「生きる」ことをテーマに動き出してから、自分が自然体になり、「人間に戻れた」という思いがあります。話せばわかつてもえたり、納得してもらえたりあるなら、相手も歩み寄ろうという思いも生まれました。ほんとうに信頼できる人たちと出会えて、つながりが濃いものになっています。 予定していた人生とは外れたけど、得たものは大きいですよ。 やまもと たろう 1974年兵庫生まれ、元才



東京都内で

聞き手 阿部悦子

やまもと たろうさん 俳優 山本 太郎

「原発反対を表明してからは」仕事は10分の1以下に減っています。苦勞させてきた母に安んじた老後をおくらせてあげたいという気持ちがあつたから、申し訳ないと思います。 でも母から「自分の信念を貫いて」「正しいと思つたことをやりなさい」と言ってもらえませんでした。背中を押されましたね、すげえ。 いい役者になりたいという夢があり、「原発」以外の仕事もしたい。でも今回、「生きる」ことをテーマに動き出してから、自分が自然体になり、「人間に戻れた」という思いがあります。話せばわかつてもえたり、納得してもらえたりあるなら、相手も歩み寄ろうという思いも生まれました。ほんとうに信頼できる人たちと出会えて、つながりが濃いものになっています。

たね。全然違う。同じ思いを持った気概ある大人たちがこれだけたくさんいるんだと、胸にくつときました。一人じゃないと心の底から思えた。(日本は)やり直せるかもしれないと希望や勇気をもらいました。 「さようなら原発集会」(9月19日、東京)ではデモ参加者一人ひとりと握手を交わしていましたね。これが民意だと感激しました。6万人規模だと視覚的に訴える効果があり、メディアも取りあげざるを得ない。すべての団体と市民が思想も超えてつながり、生きていたい人はだれでも参加する巨大なイベントをやつていくことは大事だと思います。市民運動のうねりができればいいですね。

でも自分や周りの人が生きていくための最低限の声を一市民としてあげているだけです。 東電福島原発の事故は何も収束してないし、安全の確立もしてない。今回、これだけ大きな原発事故を起こしたのに、その不安定な核技術を海外の国に売ろうとしていることも憤りを感じます。(次の国政選挙で)民主党が負けて自民党政権になったとしても(現状では)看板を掛け替えるだけで中味は変わらない。根本から変えるのはぼくたち国民しかない。どれだけの人が

高年齢の私たちは古い人間で、どちらかというとな能弁であるよりも不言実行をよとする世代だ。が、いま黙っていい時代だろうか▼政権交代後の民主党政治をみて国民不在の権力闘争ばかりが目立つ。東日本大震災の復興も福島原発の処理も進まず、国民の不満は高まるばかりだ▼そもそも政治は希望を示し、生活と福祉を守り、国民を幸せにするためのものではないのか。真面目に働き、生活している人びとが本当に幸せにならない国がまともな国といえるのか。それができない政治をいつまでもそのままだとしておいていいのか▼政治の流れを変えたい。政治を日常的に点検し、政治行動をおこなうための意識化や決意を深めるまで話し合いをした。そのためには仲間が必要だ。庶民の立場にたつ革新懇こそそれができる幅広い組織である。(渡邊進 元高知市民図書館長・高知県革新懇世話人 85歳)

懇話